

広葉樹学習会

各樹木の特徴等(ネームプレート番号順)

場所:高知県幡多郡大月町弘見

観察日 2021年10月23日

Ver01

番号	樹種名	特徴等	名前の由来	利用	その他
6	ネジキ	落葉低木～高木、樹皮、縦に裂け目が入る。幹がねじれるのでネジキという。白い鈴蘭の様な花をつける。葉は互生、卵形。火に強い、山火事後などに凄く増える。丸い実が上向きにつく。有毒植物	楡木、 幹が捻じれることによる。	庭木、花材 材は緻密で赤褐色を帯びる。 櫛やこま、印材に使われる。	ツツジ科
7	ハゼノキ	落葉高木、ウルシ科の仲間、触るとかぶれ易い、照葉樹林の中で老木が倒れると一斉に生えてくる。これは埋土種子に光が当たると芽を出すので、照葉樹林なかで紅葉が見られる場合ハゼが多い、鮮やかに紅葉する。実は和ロウソクを作る原料となる。ハゼも日本の自生種かどうかわからない、古い時代に持ち込まれた可能性がある。葉は、奇数羽状複葉。ハゼの実は栄養価が高く鳥が食べ運ぶ。	櫛の木 名前の由来ははっきりしない。	果実からロウをとるため古くから栽培されてきた。 心材は淡黄色、辺材は灰白色で寄木細工などに利用される。 櫛染(はじぞめ)は、ハゼノキの黄色い芯材の煎じた汁と灰汁で染めた深い温かみのある黄色である	ウルシ科
8	ウラジロガシ	常緑高木、カシの仲間は、国内では主に7種類有り、最も寒いところまで分布しているカシ、暖かいところでも見られる。大木になる。葉の裏が粉白色。枝が灰色、葉に鋸歯が上半分にある。	裏白櫟 葉の裏が白い櫟	生け垣、庭木、公園樹、建築材、器具材、葉は肝臓の民間薬として利用されることがある。ウラジロガシ茶	ブナ科
9	クサギ	落葉小高木、、葉が大きい、三角状、ハート型、対生、夏に白い花が咲く。鹿が嫌う、鹿が増えたとクサギが残り増える。	臭木 葉や枝に強い臭気があることから	若菜は山菜、ゴマの香りがする。臭木菜、果実は草木染め、根は薬用になる。	シソ科
11	ヤマモモ	常緑大木、雌雄異株、高知県の里山では自生し良く見られる。実の大きいものは栽培される。高知県の花、県の木は魚梁瀬(やなせ)杉、葉は若いときは鋸歯があり、古くなると鋸歯がなくなる。	山桃	庭木、公園樹、街路樹 果実は生食のほか砂糖漬け、ジャム等にする。染料や薬用にも利用される。 材は器具材	ヤマモモ科
12	コナラ	落葉高木、雌雄同株、秋に実(ドングリ)が生る。東アジアで暮らしに欠かせない木、薪炭材として利用されてきた。伐採後、切り株から萌芽(ひこばえ)して繰り返し使える。樹齢200年ぐらいにもなる。 どんぐりのなる木で、常緑樹はカシ、落葉樹はナラと分けられる。本来、常緑樹林の中ではほとんどコナラ無かったと思われるが、人間の活動で広がった。高知県では伐採圧がかかるためアラカシが増え、さらに伐採圧がかかるとコナラが増える。自然林の中では尾根の土壌の薄く乾燥している土地に生育していたが、人間の活動で土壌が薄くなると広がっていった。	小櫛 日本の主要なナラ(櫛)であるミズナラの別名であるオオナラ(大櫛)と比較してつけられたといわれている。	薪炭材、シイタケの原木 材はミズナラより硬くて重い が、ミズナラより評価は低い、 建築材、家具材、器具材、 葉、果実、樹皮を煮出して染色に 使われる。	ブナ科

広葉樹学習会

各樹木の特徴等(ネームプレート番号順)

場所:高知県幡多郡大月町弘見

観察日 2021年10月23日

Ver01

番号	樹種名	特徴等	名前の由来	利用	その他
13	モチノキ	大木になる。似た樹種は、クロキ(クロキ参照)、葉は互生、果実は球形で赤色に熟す。	トリモチが名前の由来	樹皮が、トリモチになる。 庭木 材が、白く緻密で硬く、木工品の素材としても使われる。	モチノキ科 第1回広葉樹学習会
14	ヌルデ	落葉小高木、ウルシ科、虫こぶをつくる。虫こぶ(虫えい)は、葉にヌルデシロアブラムシが寄生してできる。五倍子と呼ばれる。タンニンの含有率が高く、薬用や染料に利用される。かつてはお歯黒にも使われた。葉は奇数羽状複葉で、葉軸に翼があるのが特徴	白膠木 幹に傷をつけると白色の樹液がしみだす。これを器具などに塗ったことから	材を吸収しにくく、器具材や護摩木に使われた。樹皮は塗料、果実はロウの原料	ウルシ科
15	イヌビワ	落葉樹、小さいが、イチジクにそっくりな実が生る。	犬枇杷	ビワに比べ不味、食感も味も小型イチジク	クワ科
16	カクレミノ	常緑高木、ヤツデなどの仲間、樹皮はツルっとしている。葉は若い時は切れ込みが三つあるが、成長すると切れ込みがなくなり丸くなる。果実は晩秋に黒紫色に熟す。	隠れ蓑 葉の形状に由来する。	庭木 黄漆茶? 樹皮に傷をつけると白い液(これを黄漆という)が出て、家具の塗料に使った。	ウコギ科
17	ウツギ	落葉低木、梅雨前ぐらいに白い花が咲く(卵の花)、枝は髓が抜けて中空でウツギ(空木)の名前はここから来た。日当たりの良いところを好む	空木 茎が中空であることから、豆腐の絞るかすのおからの事を卵の花というが、空の連想から又おからが卵の花に似ていることから卵の花と呼ばれる様になった。	庭木、鉢植え、花材	アジサイ科
19	クスノキ	常緑高木、大木になる。クスノキ科の葉の特徴と同様に、三行脈が目立つ。古来から非常に有用な木、元々、日本の自生種かどうかわからない、古い時代に持ち込まれた可能性がある。樹皮と葉に樟脳の香りがする。樹皮は短冊状に縦に裂ける。	楠、樟、葉の木が語源等、諸説ある。	有用な広葉樹、ショウノウ(樟脳)の原料、防虫効果、神社仏閣の土台、丸木船、木魚等に利用されてきた。	クスノキ科
20	シロダモ	常緑大木、楠の仲間、楠の仲間の葉は三行脈が目立つ、タブの葉は三行脈にならない。赤い実が沢山生る。ヤブニッケイに良く似ている。違いは葉が固まって生える。葉柄(ようへい)の違い、葉の裏が白い、匂いはヤブニッケイの方が強い。	白だも 葉の裏が白い事による。	庭木、防風樹 実から採油しロウソク材料木材	クスノキ科
21	ヤブニッケイ	楠の仲間、シロダモとの違いは、葉があまり固まらないで生える。その他シロダモ参照、果実は熟すと黒紫色になる。	藪肉桂	庭木、建築材、器具材 種子から香油をとる 葉や樹脂は薬用になる。 実をカカオ豆の代用にした事がある。	ニッケイより香が劣る。 クスノキ科

番号	樹種名	特徴等	名前の由来	利用	その他
22	ネズミモチ	常緑小高木、ライラックに近い仲間、葉が対に生える(対生)。白い花が咲く。実は楕円の紫黒色で小さい(1cm)、幹が白い	果実がネズミの糞に、葉がモチノキに似ているから	街路樹や生け垣 実は薬用、滋養強壮目的など	モクセイ科
23	アラカシ	常緑高木、普通にみられるカシ、葉の鋸歯が、真ん中から半分に大きな鋸歯があり、裏側の側脈の隆起が大きい、カシの中で最も人間に利用された。それは伐採圧に強く、伐採されても萌芽(ひこばえ)能力が高いからである。さらに伐採圧がかかるとコナが残る。果実(ドングリ)の殻斗(ドングリの入っている台のような部分)は環状である。カシの中で照葉カシに分類される。ウバメガシは硬葉カシ	粗樫 葉や枝振りが粗っぽいことに由来しているとされる。カシ(樫)は堅い木からとされる。	白炭(備長炭)の原木として使われる。 生け垣、庭木、建築材、器具材、農具や工具の柄、餅つきの杵など、シイタケの原木、ドングリは食用、カシ豆腐など	ブナ科 コナラ属の中で落葉するものはナラ、常緑はカシ、ウバメガシは常緑だがナラの仲間、
24	イヌツゲ	常緑小高木、葉は互生で、小さな楕円形、モチノキ科、ツゲは対生、ツゲ科で分類が異なる。	犬黄楊 ツゲに似ているが材がツゲほど役に立たないから	庭木、盆栽 材は細工物などに使われる。 樹皮からトリモチが取れる。 イヌツゲの枝葉を結びつけて海に入れることで、イカ(コウイカ)が枝葉に卵を産みつけにくる。イカカゴ漁	モチノキ科
25	ヤブツバキ	常緑広葉樹でもいろいろ有り、日本の南半分、暖温帯は、常緑樹が優先すし、葉が光る照葉樹が多く、ヤブツバキは、その代表格である。暖温帯をヤブツバキクラスと呼ぶ。葉に鋸歯(ギザギザ)がある。枝が白い、幹も白い。	藪椿	庭木 インテリアの心材 種からは椿油、椿油の天ぷら 木灰は、日本酒の醸造に使われる。灰持(あくもち)酒	ツバキ科 足摺に実が大きいリンゴ椿がある。
26	ハマクサギ	落葉小高木、海岸近くの林縁などに生える。葉を揉むと特有の臭いがずる。葉は対生。	浜臭木 海岸に生え、葉に悪臭があることから	悪臭を利用し、鹿児島県ではこの木の枝を畜舎などにつるしてハエを追うのに用いるという。 薬用、薬膳料理?	シソ科
27	タブノキ	常緑広葉樹、高木、大木になる。クスノキの仲間、葉は互生、皮質で表面に光沢がある。他のクスノキの仲間は、葉の三方脈が目立つが、タブは目立たない。海岸近くにはウバメガシと同様、沢山、生育する。8-9月ごろ球形で黒い果実が生り、食べる事ができる。果実は直径1cmほどで、同じクスノキ科のアボカドと同属	榎 古来からの木で諸説ある。 別名、イヌグス	公園樹、庭木、防風樹 材は建築材、家具材、彫刻材 枝葉からタブ粉が得られる。タブ粉は、線香の原料のひとつ(粘着材)になる。樹皮や葉は染料に用いられる。	クスノキ科
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・樹に咲く花 離弁花1(山と溪谷社) ・樹に咲く花 離弁花2(山と溪谷社) ・樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物(山と溪谷社) ・樹木と木材の図鑑(創元社) ・ウィキペディア(Wikipedia)等 			